

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設名	ポピンズナーサリースクール駒形
施設所在地	東京都台東区駒形1丁目4-7 バンダイア
法人名	株式会社ポピンズエデュケア

1. 活動のテーマ

<テーマ>

科学

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)

なんでだろう? どうしてだろう? と思うと図鑑を持出、調べたりする探究心のある子供たちなので、日常生活のなかでその子供たちの探究心に沿った実験や科学遊びなどを取り入れていたこともあり、科学をテーマに活動を広げることで物の不思議を追及したり体験したりし好奇心や興味関心を更に広げていくため。

2. 活動スケジュール

①2025年8月8日

活動テーマ: オシャンボトルを作ろう

方法: 色水、油、面活性剤

②2025年9月5日

活動テーマ: 身近にある不思議に触れよう: 鏡

方法: 大小の鏡、手洗い場等の鏡

③2025年10月10日

活動テーマ: バスボムの不思議に触れよう

内容: 重曹、クエン酸、色水

④2026年11月21日

活動テーマ: 身近にある不思議に触れよう: 空気

内容: ビニール袋

⑤2026年2月27日

活動テーマ: 身近にある不思議に触れよう: 振動

内容: ビーズ、小型モーター、割り箸、容器

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

・石鹼水、様々な容器、合わせ鏡、絵の具、食紅、水、カラーセロハンなど身近に馴染みのあるものを用意する。

・科学に知見のある講師を招聘し、保育者と連携しながら、子どもたちの興味関心に合わせた実験を行う。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

・オーシャンボトル：水と油が混ざり合わない性質を利用し、容器の中で二層の世界を作る実験。作ったボトルを振ってから放置して液体が分離する様子を観察。

・鏡：大きな鏡に反転文字を映す等、左右が逆になる鏡の性質を体験。2枚の小さな鏡を様々な角度で組み合わせ、物の映り方が変化する様子を試行錯誤しながら発見をした。

・バスボム：重曹・クエン酸を混ぜ、水に触れると炭酸ガスが発生する反応を体験。好きな色を付けて自分だけのバスボムを作る過程を通して身近な不思議への興味を育んだ。

・空気：長いビニール袋に空気を閉じ込めるための空気の入れ方を試行錯誤し、実際に膨らんだビニール袋に触れたり子どもたち全員で乗ってみることで、空気の弾力や力強さを体感。

・振動：振動モーターを使い、目に見えない「震え」が空気や棒を伝わって物を動かす現象を実践。重い物と軽い物で動きが異なるなど、空気が振動して物に伝うことに興味を広げた。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

日頃から親しみのある素材を「科学」という視点で捉えたことで、子どもたちの「家にある!」「知ってる」という気持ちを持ちながらも「どうして?」「やってみたい」と期待を持って自発的に取り組み始めた。また活動時期に応じて、手洗いするとき(鏡)、お風呂に入るとき(バスボム)、乾燥の季節(空気)など生活の中で強調されるようなキーワードでの活動により関心を持っていた。目に見えない科学的な現象を「すごい!」「魔法みたい!」と驚きをもって受け止め、自分の予想と結果を照らし合わせながら友達や保育者と発見を分かち合う会話が活発に弾んでいた。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

年間を通して【科学】というテーマ一つに絞って行ってきたが、同じテーマだとしても、子どもたち一人ひとり興味や関心がわくものはそれぞれあり【科学】という分野の中でも、子どもたちにとってはそれぞれに感じることの異なる刺激があったことに気付いた。また、異年齢で一つのテーマに沿って活動することで、年長児が気付いたことをヒントに、年中児、年少児も個別の年齢で行うよりも幅広い気づきがあり、興味がわいていた。活動を通して日常生活の中でも不思議を見つけ予想したり、答えを見出そうとする考える力が芽生えてきたと思う。